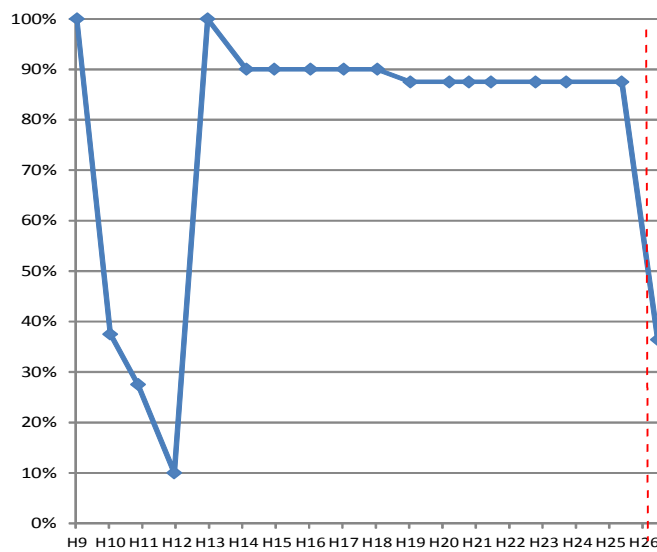


樹種名	ハリギリ（別名：センノキ）	
科 目	ウコギ科	
学 名	<i>Kalopanax pictus</i>	
分 布	日本全土（特に北海道）、国外では朝鮮半島、中国の山地に分布する。	
樹木特性	陰樹であり山地に生えブナ林などに点在するが、低地の二次林内でも生育する。暗い環境でも成長し耐陰性がある。 また、比較的長寿な樹種であるため稚樹が暗い環境にある程度耐え閉ざされた林冠の下でも前生稚樹を形成できる。 生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠するが、その寿命は短い。	
用 途	公園樹、建築・家具材として利用。	
植栽本数/面積 （植栽密度）	44 本／0.03ha （約 1,500 本／ha）	
特 徴	【樹 形】 ハリギリ（針桐）は、ウコギ科の落葉高木で広葉樹。幹は直立し、高さ 10~20m、大きいものは 30m になる。 別名、センノキ（栓の木）、ミヤコダラ、テングウチワ、ヤマギリなどがある。若木は枝や樹幹にとげがあるが、老木になるに従い鋭さを失い瘤になる。幹の樹皮に深く縦に入った筋（裂け目）がこの樹木を特徴づける。 葉柄は長さ 10~30cm、葉身は掌状に 5~9 裂し、カエデのような姿で径 10~25cm と大きく、秋には黄褐色に黄葉する。7~8 月、黄緑色の小花が球状に集まったものが傘状につき、藍色の丸い果実を結ぶ。 肥えた土地に自生するので、開拓時代はこの木が農地開墾の適地の目印であった。その為、北海道には大きな木が多く、明治末には下駄材として本州に出荷された。現在でも国内産の 9 割は北海道産である。 展開したばかりの芽は同じウコギ科のタラノキやコシアブラ、ウド等と同様に山菜として食用にされる。	  
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽 1 年目に多数が枯死し、4 年後の生育本数は 1 割程度まで激減した。このことから、平成 13 年 3 月に山引き苗を補植した。その後は 1 割が枯死したものの順調に生育している。	
被 害	特になし。	

ハリギリ 現存率



【現存率】

植栽直後に大部分の苗木が枯死した。このことから平成 13 年、14 年の 2 年間にわたり補植（20 本）を実施した。補植後の枯死は少なく、比較的安定している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 36.4%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

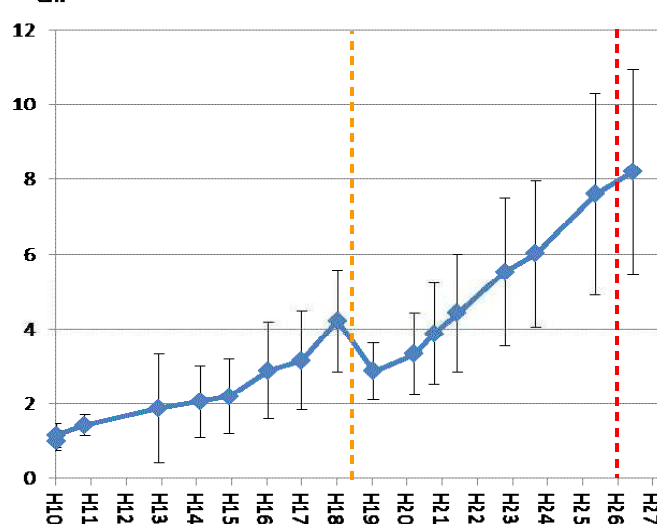
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 8.20 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ハリギリ 根元・胸高直径



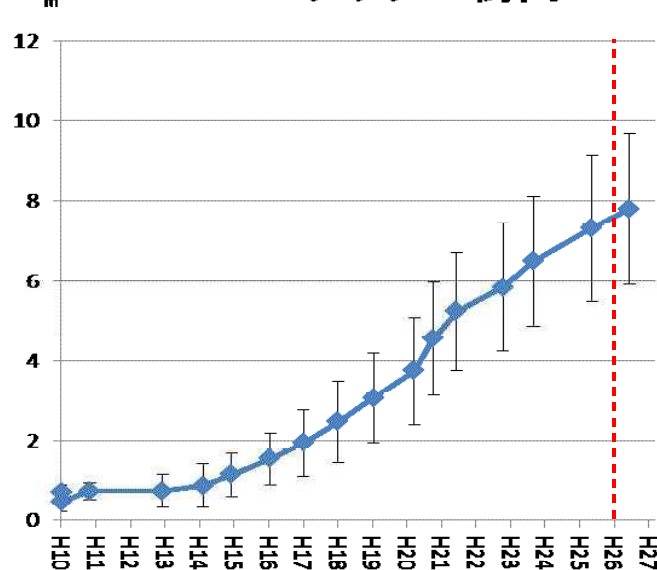
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 7.80m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ハリギリ 樹高



《プチ情報》

木材としては「栓（せん）」と呼ばれる。木肌が深く裂け、黒ずんだ褐色の色をしている木から取れる「オニセン（鬼栓）」と、木肌がなめらかな木から取れる「ヌカセン（糠栓）」に分かれる。鬼栓は加工には向かず、沈木に用いられる。一方、糠栓の材は軽く軟らかく加工がし易い為、建築、家具、楽器（エレキギター材や和太鼓材）、仏壇、下駄、賽銭箱に広く使われる。耐朽性はやや低い。葉が天狗の団扇のような形をしていることから、「テングウチワ」と呼ばれることもある。

環孔材で肌目は粗いが板目面の光沢と年輪が美しく海外でも人気がある。色は白く、ホワイトアッシュに似る。ケヤキに似た木目を持つことから櫟の代用品としても使用される。この場合は着色した上で新櫟・櫟調と表記されることもある。